



森税理士の「ちょっと気になる税務のはなし」

アグリビジネス・ソリューションズ株式会社
代表取締役 森 剛一氏

税務相談窓口
事業推進課 経営指導相談係
■問い合わせ先
TEL : 0824-64-2072 Fax : 0824-64-2233

経営継承(平成 26 年度)

経営継承については、これまでも何度か触れておりますが、制度が変更された部分がありますので改めて紹介させていただきます。

1. 「相続」と「生前の経営継承」の違い

「相続」とは人が死亡した場合に、その者の親族が財産上の権利・義務を承継することをいいます。死亡した人を被相続人といいますが、被相続人が酪農などの事業を営んでいた場合、相続に伴って相続人への経営継承が行われます。一方、経営継承は、生前に行うこともできます。経営継承が相続による場合と生前の場合とでは税務上の取扱いなどが異なりますので注意してください。

親子間の経営継承を例にとると、相続の場合は、親の資産及び負債を子が包括的に継承します。これに対して、生前の経営継承の場合には、事業譲渡をした親が廃業して子が新規に開業する形式を採ります。例えば、消費税について、相続の場合は納税義務を継承しますので、相続があった年の基準期間(前々年)における被相続人(親)の課税売上高が1千万円を超える場合、相続があった日の翌日以後その年分の相続人(子)の納税義務は免除されません。これに対して生前の経営継承の場合、継承者(子)は新規開業の形になりますので、継承者には基準期間の課税売上高がないことになり、課税事業者を選択しない限り、開業した年とその翌年は免税事業者となります。

2. 何を継承するのか

生前の経営継承では、実質的には経営を引き

継ぎますが、形式的には資産の贈与または貸与になります。牧場の土地や施設、搾乳牛だけでなく、親が築いた技術やノウハウなどの無形の資産も牛群や畜舎などと共に継承します。

また、一般に、生乳の生産枠などもそのまま引き継ぎます。

ノウハウや生産枠については、第三者から譲り受ける場合には有償となることもありますが、親子間の経営継承であれば、無償で引き継ぐことができます。

3. 具体的な手続き

(1) 事業を廃止した人の手続き及び必要な届出

事業を廃止した人は、『個人事業の開廃業等届出書』(廃業)を税務署に提出します。

また、不動産所得がない場合には、青色申告をすることが出来なくなりますので、『所得税の青色申告の取りやめ届出書』も併せて提出します。

(2) 事業を引き継いだ人の手続き及び必要な届出

事業を引き継いだ人は、『個人事業の開廃業等届出書』(開業)とともに、『所得税の青色申告承認申請書』を提出します。

また、事業専従者がいる場合には、『青色事業専従者給与に関する届出書』、『源泉所得税の納期の特例の承認に関する申請書』も忘れずに提出しましょう。なお、後で説明する相続時精算課税制度を利用する場合には、『相続時精算課税選択届出書』を提出することになります。

来月は、変更点を含めた税制についての話題です。

今こそ受精卵移植！ 乳牛の後継牛生産～取り組み実績～

県立総合技術研究所畜産技術センター 育種繁殖研究部 日高健雅氏

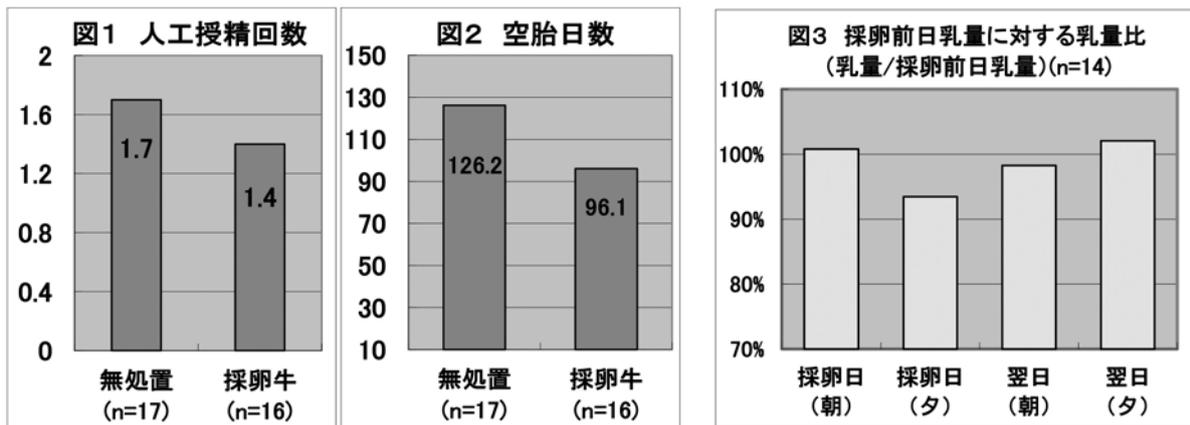
〔乳量や繁殖への影響〕

今回は、経膈採卵の繁殖や乳量への影響、費用や雌受精卵生産成績などの実績を紹介します。

経膈採卵では、卵巢に針を直接刺すことに加え、枠場内で約30分保定する必要があります。そのため、傷による卵巢機能の低下や採卵ストレスによる乳量の減少を心配される方もおられると思います。そこで、採卵牛の人工授精成績と採卵前後の乳量を調べてみました。

人工授精成績については、採卵牛が受胎するまでの人工授精回数(図1)と空胎日数(図2)を示しています。採卵牛は平均1.4回の人工授精で全頭が受胎し、その空胎日数も96.1日と採卵と差は認められず、悪影響は認められませんでした。

一方、乳量は採卵日の夕方と採卵翌日の朝の搾乳で減少(平均1.3 l)が認められましたが、採卵翌日の夕方には採卵前日程度まで乳量が回復しました。



〔酪農家における性判別を活用した後継牛生産の実績〕

「能力が高く後継牛を増やしたいが、そんな牛に限って雄ばかり産む」と嘆かれていた酪農家の依頼で実施した雌の受精卵生産の結果を紹介します。搾乳牛では、泌乳の影響からホルモン処置による体内受精卵生産が困難なため、経膈採卵による体外受精卵生産を行いました(図4)。成績は、体外受精卵が6個生産され、さらに性判別を行った結果、3個の雌の受精卵(図5)が得られました。移植により1頭が受胎し、無事雌子牛が産まれました。



図4 経膈採卵の様子

費用は、体外受精卵生産：32,000円※、受精卵の性判別：22,000円※、計54,000円※でした。(※金額はH23年度の設定金額です。)

生産効率は決して高いわけではありませんが、後継牛確保のために技術が活用され始めています。

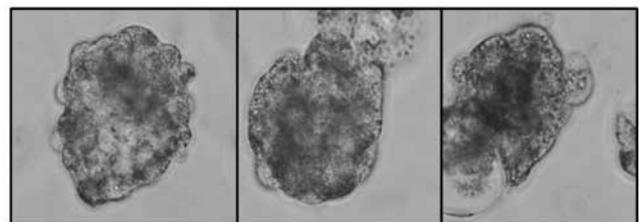


図5 生産された雌の受精卵